

聾重複障害児の教育概論 I

担当教員	前田晃秀・甲斐更紗・二神麗子・金澤貴之		
科目分野	【教育学部】障害児教育専攻科目 【共同教育学部】特別支援教育専攻科目 【専門科目】特別支援教育特別専攻科専攻科目	開講曜日・時限	前期・集中
授業形式	講義および演習	単位数	1

❖ 授業の目的

・聴覚障害児・者の中でも、視覚にも障害がある盲ろう児・者の場合、特にコミュニケーションが困難になる。そこでこの授業では、コミュニケーションを中心とした盲ろう児・者への支援のために特別支援教員として必要な基本的な知識と基礎的な技術の習得を目指す。

❖ 授業の到達目標

- ・盲ろう児・者が抱える困難とニーズを説明できる。
- ・盲ろう児・者のコミュニケーション手段を説明できる。
- ・平易な内容について、盲ろう児・者とコミュニケーションを取ることができる。
- ・盲ろう者への移動支援を実践できる。

❖ 授業概要

・盲ろう児・者支援の実務経験のある教員により、具体的な支援方法をイメージできるよう、演習を主体にした授業を行う。

・盲ろう児・者が抱える困難や盲ろう児・者の支援の特徴を理解し、盲ろう児・者が用いる各種コミュニケーション手段の基礎を身に付ける。

❖ 各回の主な内容

- 1：盲ろう児・者概論（講義）
- 2：盲ろう疑似体験（講義・演習）
- 3：点字・指点字①（講義）
- 4：点字・指点字②（講義）→課題提出
- 5：手書き文字（講義・演習）
- 6：点字・指点字③（講義・演習）
- 7：視覚障害の理解（講義・演習）
- 8：盲ろう児への教育的支援（講義）→課題提出
- 9：盲ろう者の日常生活とニーズ（講義）

- 10: 触手話① (講義・演習)
- 11: 触手話② (演習)
- 12: 点字・指点字④ (演習) →課題提出
- 13: 基本移動介助① (講義・演習)
- 14: 基本移動介助② (講義・演習)
- 15: 盲ろう者福祉制度概論 (講義) →課題提出

聾重複障害児の教育概論Ⅱ

担当教員	前田晃秀・甲斐更紗・二神麗子・金澤貴之		
科目分野	【教育学部】障害児教育専攻科目 【共同教育学部】特別支援教育専攻科目 【専門科目】特別支援教育特別専攻科専攻科目	開講曜日・時限	後期・集中
授業形式	演習および実習	単位数	1

❖ 授業の目的

・聴覚障害児・者の中でも、視覚にも障害がある盲ろう児・者の場合、特にコミュニケーションが困難になる。そこでこの授業では、コミュニケーションを中心とした盲ろう児・者への支援のために特別支援教員として必要な基本的な知識と基礎的な技術の習得を目指す。

❖ 授業の到達目標

- ・盲ろう者と円滑にコミュニケーションを取ることができる。
- ・個々の盲ろう者に適した情報を提供できる。
- ・安全に盲ろう者を移動介助できる。

❖ 授業概要

・盲ろう者支援の実務経験のある教員により、具体的な支援方法をイメージできるよう、演習と実習を主体にした授業を行う。

・個々の盲ろう児・者に応じたコミュニケーション手段を用い、コミュニケーションや情報、移動に関する実践的な支援技法を身に付ける。

❖ 各回の主な内容

- 1-2：盲ろう通訳技術の基本（講義・演習）
- 3：盲ろう通訳技術の実際（演習）
- 4-5：移動介助の基本（講義・演習）→課題提出
- 6：通訳・介助員の心構えと倫理（講義）
- 7-9：通訳・介助実習①（実習）
- 10：通訳・介助員のあり方①（講義・演習）→課題提出
- 11：通訳・介助員のあり方②（講義・演習）
- 12-14：通訳・介助実習②（実習）
- 15：通訳・介助員派遣事業と通訳・介助員の業務（講義）

手話とろう文化

担当教員	金澤貴之・下島恭子		
科目分野	【教養教育】総合科目群	開講曜日・時限	前期・木3-4
授業形式	講義及び実技	単位数	2

❖ 授業の目的

ろう者の言語である「日本手話」の実技指導を通して初歩レベルの会話を手話で表現できるようにするとともに、ろう者の考え方や行動様式を「ろう文化」という異文化理解の視点で捉えていくことで、身体状況、言語、文化の異なる者の多文化共生社会のあり方について見識を深める。

❖ 授業の到達目標

講義のテーマに関心があれば全くの初学者で構いません。

❖ 授業概要

聴覚に障害のある人たちの中には、日本手話という独自の言語を身につけ、独自の文化を築き上げていく「ろう者」と呼ばれる人たちがいる。本講義では、日本手話の実技を交えながら、手話とろう文化について概説する。

日本手話は日本語とは異なる文法構造を持っている。そのため実技指導にあたっては、ろう者教員の直接教授により、手話のみ（音声なし）で行う。また、講義形式の中で、文法等に関する理論的な説明も行う。

単に「日本手話」という言語を学ぶだけでなく、その背景となる「ろう文化」について概説する。具体的には、態度や言葉の解釈の違いなどの思考・行動様式や、生活・教育環境の違い、そしてその背景となるろう者社会の歴史や社会事情について幅広く取り扱う。

その上で、具体的に群馬大学のキャンパスにおいて、聴覚に障害のある学生たちが、聞こえる人の世界の中で学生生活を過ごす際に、どのような障壁が生じるのか、そして双方の関わりの中でその障壁をどのようにして軽減していけるかを、グループに分かれて話し合い、異文化共生のあり方を考えていく。

また、学内の聴覚障害学生や地域の聴覚障害者との交流がスムーズに行えるよう、日本手話だけでなく、聴覚障害者と通じ合うための様々なコミュニケーション手段についても実践的に学ぶ。

❖ 各回の主な内容

第1、2回：

・講義：ろう者を取りまく生活・教育環境（下島）

・実技：名前、自己紹介（下島）

第3、4回

・講義：実はずいぶん違う、ろう者と聴者（金澤）

・実技：色やものの形（下島）

第5、6回

・講義：言語としての日本手話（下島）

・実技：場所を説明する（下島）

第7、8回

・講義：ろう者の文化・歴史（金澤）

第9、10回

・講義：さまざまな聴覚障害者：ろう者、難聴者、中途失聴者（金澤）

・実技：感情表現（下島）

第11、12回

・講義：群馬大学での障害学生支援（ノートテイクの実践を含む）（金澤）

・実技：1日の生活、1年の生活（下島）

第13、14回

・実技：様々なコミュニケーション手段（下島・金澤）

・聞こえる社会に生きるということ（グループ討議）（金澤）

第15回：まとめ（金澤）

手話と情報アクセシビリティ

担当教員	二神麗子・川端伸哉		
科目分野	【教養教育】総合科目群	開講曜日・時限	後期・水5-6
授業形式	講義及び実技	単位数	2

❖ 授業の目的

ろう者の言語である「日本手話」の実技指導を通して初歩レベルの会話を手話で表現できるようにするとともに、聴覚障害に関わる情報アクセシビリティの課題を理解し、多文化共生社会のあり方について見識を深める。また、「障害」を「個人の疾病や特性に起因するもの」ではなく、「社会や人との関係性の中で構築されるもの」と捉え直すことで、「障害」のある人とない人とが共に生きる社会のあり方について自分なりの考えを深める。

❖ 授業の到達目標

- 1) 日本手話で、日常生活全般を話題にした会話ができるようになる。(全国手話検定試験4級相当)
- 2) 日本手話の基本的な文法を理解する。
- 3) 聴覚障害者に関わる情報アクセシビリティを理解する。

❖ 授業概要

聴覚に障害のある人たちの中には、日本手話という独自の言語を身につけ、独自の文化を築き上げている「ろう者」と呼ばれる人たちがいる。本講義では、日本手話の実技を交えながら、聴覚障害に関わる情報アクセシビリティの課題について概説する。

日本手話は日本語とは異なる文法構造を持っている。そのため実技指導にあたっては、ろう者教員の直接教授により、手話のみ（音声なし）で行う。また、講義形式の中で、文法等に関する理論的な説明も行う。

また、単に「日本手話」という言語を学ぶだけでなく、聴覚障害者が聴者（耳が聞こえる人）たちの中でマイノリティとして生きていく上で障壁となる情報アクセシビリティの課題についても概説する。その際、聴覚障害だけでなく、知的障害や視覚障害など、その他の障害を合わせ有するために生じる課題にも触れる。その上で、地域の中で聴覚障害者（ろう者や難聴者）やその他の障害を合わせ有する人々が日常生活を送る上でどのような障壁があるのか、他社や社会との関わりの中でその障壁をどのように軽減していけるかを考えていく。

❖ 各回の主な内容

第1、2回：

- ・講義：手話を取り巻く国内の動向（二神）
- ・実技：名前をたずねる（川端）

第3、4回

- ・講義：障害者差別解消法と合理的配慮（二神）
- ・実技：色やものの形（川端）

第5、6回

- ・講義：様々な障害者の情報アクセシビリティ（二神）
- ・実技：場所を説明する（川端）

第7、8回

- ・講義：聴覚障害とその他の障害を合わせ有する人のコミュニケーション（二神）
- ・実技：数の表現（川端）

第9、10回

- ・講義：就労場面における情報アクセシビリティについて（二神）
- ・実技：大学生活・感情表現（川端）

第11、12回

- ・講義：メディアにおける情報保障について（二神）
- ・実技：生活・年間行事（川端）

第13、14回

- ・講義：聴覚障害者のダブルマイノリティについて（二神）
- ・実技：自分について話そう（川端）

第15回：まとめ（二神・川端）

「手話サポーター養成事業」を知っていますか？

語学として
手話を学んでみたい

手話を身につけて
将来の仕事に
活かしたい



…という人なら誰でも受講可能です！

○これまで、どこかで学んだり、なんとなくやってみたことがあった「日本手話」。しかし、「日本語」とは異なり、「アメリカ手話」とも異なる、独立した言語であることは、知らなかったのではないのでしょうか。日本手話ネイティブのろう者の講師から、本当に「使える」日本手話を学んでみましょう。あなたのコミュニケーションの幅を広げてみませんか。

手話に触れてみたい人向け

手話とろう文化(前期木曜3・4限)

ろう者の言語である「日本手話」の実技指導を通して初歩レベルの会話を手話で表現できるようにするとともに、ろう者の考え方や行動様式を「ろう文化」という異文化理解の視点で捉えていくことで、身体状況、言語、文化の異なる者の多文化共生社会のあり方について見識を深めます。

手話と情報アクセシビリティ(後期水曜5・6限)

初歩レベルの会話を手話で表現できるようにするとともに、聴覚障害に関わる情報アクセシビリティの課題を理解します。また、本学における「障害学生支援」について理解を深め、「障害」のある学生とない学生とが共に学ぶ大学のあり方について自分なりの考えを深めるとともに、実際の関わりに最低限必要なコミュニケーション方法を身につけます。

日本手話における空間利用

話者の身体の前には広がる空間「手話空間」内のどの位置で手話の話を発出するかによって、特別な意味が付けられる。

空間の定法

1. 無意味な空間利用 (毎日行います)
無意味な空間から話すと、手話空間に異変がもたらされず、話の内容、話の長さ、話の速度、話の方向、話の強弱、話の感情などが伝わりません。
2. 片側の空間利用 (2週間行います)
話者の右側(または左側)に話すと、手話空間の片側(または片側)に話の内容、話の長さ、話の速度、話の方向、話の強弱、話の感情などが伝わりません。
3. 両側の空間利用 (決まりません)
話者の左側、中央、右側に話すと、手話空間の両側、中央、右側に話の内容、話の長さ、話の速度、話の方向、話の強弱、話の感情などが伝わりません。



手話を本格的に学びたい人向け

言語としての日本手話ⅠA(前期火曜1・2限)

言語としての日本手話ⅠB(前期水曜5・6限)

言語としての日本手話ⅡA(後期火曜1・2限)

言語としての日本手話ⅡB(後期水曜7・8限)

- ・「ⅠA」「ⅠB」は連続している演習のため併せて履修すること。
- ・「ⅡA」「ⅡB」は連続している演習のため併せて履修すること。

日本語とは異なる言語体系を持つ日本手話について、基本的な構文と文法を習得し、日常生活や社会生活全般の話題について日本手話でやりとりをする力を深めます。



少人数で学びます。課題もちよっと多いかも(笑) その分、みるみる上達していくのが分かります！

【問い合わせ先】日本財団手話サポーター養成プロジェクト室

(7号館B107) Email: signstaff@jimu.gunma-u.ac.jp

公式LINE:



「手話サポーター養成事業」関連講義の案内

手話を習得し
将来の専門職に
活かしたい

聞こえない子どもに
手話で授業ができるために教師に
必要な「伝える力」を磨きたい！

ろう重複者や
盲ろう者の支援に
興味がある

・・・という人なら誰でも受講可能です！

○本事業のプログラムを通じて、1年次の日本手話の基礎を習得し、2～3年次では、手話通訳の資格取得も可能な通訳演習学習により日本手話のスキルを高めます。その上で4年次に、ろう重複児・者(聴覚障害と他の障害を併せ有する児・者)を含め、手話を用いたコミュニケーション支援/学習指導におけるスキル習得を目指します。

	開講講義	関連講義
4年次 手話を用いたコミュニケーション/学習指導スキルを高める	群馬県教員採用試験(第一次選考)に加点 ↑ 手話通訳士の資格を有するまたは群馬県手話通訳者認定試験合格者 聴覚障害教育演習E 聴覚障害教育演習D 聴覚障害教育演習C 「手話通訳者全国統一試験」受験資格「手話通訳士試験」	ろう重複障害支援技術(盲ろう者向け通訳・介助員の資格取得など)の習得 盲ろう教育総論
3年次 手話通訳演習を通して日本手話のスキルを高める	日本手話と日本語の違いを学ぶⅢ※ 厚労省手話通訳者養成カリキュラム実践課程相当	聴覚障害児指導法特論
2年次 日本手話のスキルを高める	日本手話と日本語の違いを学ぶⅡ※ 厚労省手話通訳者養成カリキュラム応用課程相当 日本手話と日本語の違いを学ぶⅠ※ 厚労省手話通訳者養成カリキュラム基本課程相当	聴覚障害児の心理特論
1年次 日本手話の基礎を学ぶ(教養教育)	言語としての日本手話ⅡB 言語としての日本手話ⅡA 言語としての日本手話ⅠB 言語としての日本手話ⅠA ・「ⅠA」「ⅠB」が履修済みであること。 ・「ⅡA」「ⅡB」は連続している演習のため併せて履修すること。 ・「ⅠA」「ⅠB」は連続している演習のため併せて履修すること。	手話とろう文化 手話と情報アクセシビリティ

【注】※の講義は卒業単位となりますが、教員免許の単位には含まれません。

ろう重複児・者への支援について学びたい場合

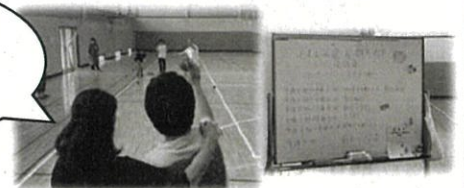
聴覚障害と他の障害(知的障害、視覚障害など)を併せ有する児・者(ろう重複児・者)への支援を学ぶための課外活動があります。

- ①ろう重複児・者と交流する企画の運営・参加
- ②盲ろう者(聴覚障害と視覚障害を併せ有する人たち)の団体である「群馬盲ろう者つるの会」のイベント参加によるボランティア活動

「群馬盲ろう者つるの会」イベントボランティア活動(3回以上参加)をすることで、4年生にて盲ろう者向け通訳・介助員の資格取得などの講義を受講後に群馬県の盲ろう者向け通訳・介助員の資格が取得できます。

ろう重複者が集まる居場所づくりなどの実践を通してろう重複児・者への支援技術を学びます。

ろう重複者との交流企画



写真引用: <https://sites.google.com/a/gunma-u.ac.jp/kanazawalab/tomato>

(コロナ禍のため、ろう重複児・者と交流する企画運営・参加や「群馬盲ろう者つるの会」ボランティア活動等が難しい場合もあります)

【問い合わせ先】日本財団手話サポーター養成プロジェクト室

(7号館B107) Email: signstaff@jimu.gunma-u.ac.jp

公式LINE:



「手話サポーター養成事業」関連講義の案内

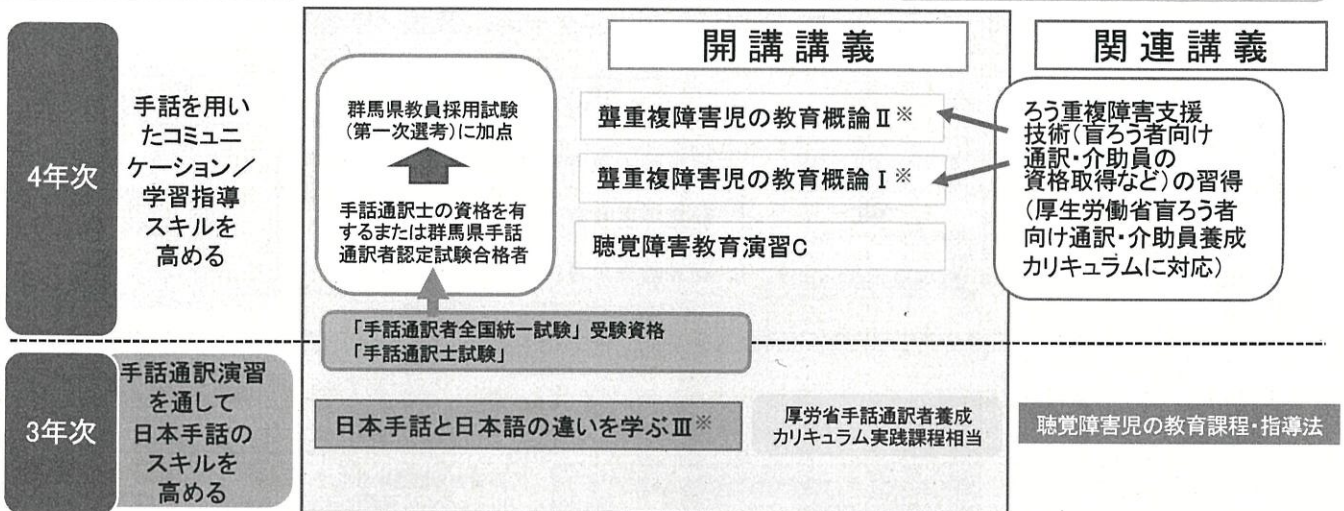
学校で求められる
手話の技術を磨きたい

手話で指導ができる/
手話通訳ができる
教員になりたい!

ろう重複児・者と
関わる専門職を
目指したい

…という人なら誰でも受講可能です!

○本事業のプログラムを通じて、3年次では、手話通訳の資格取得も可能な通訳演習学習により日本手話のスキルを高めます。その上で4年次に、ろう重複児者を含め、手話を用いたコミュニケーション支援/学習指導におけるスキル習得も目指します。



【注】*の講義は卒業要件の単位であり、教員免許の単位には含まれません。

4年生になったら…あれこれできますよ!

■聴覚特別支援学校教員向けの手話技術を磨きたい!

「聴覚障害教育演習C」

教育場面で使える、聴覚障害児・者の特性やニーズに即した手話コミュニケーションと手話通訳の技術を習得します!



中野聡子先生 武居渡先生 白澤麻弓先生 などの講師陣

■盲ろう者向け通訳・介助員の資格を取りたい!



前田晃秀先生

- ・盲ろう者当事者と触手話でのコミュニケーション実習
- ・指点字のコミュニケーション実習
- ・盲ろう児者の移動介助実習

など

講義受講と、盲ろう者(聴覚障害と視覚障害を併せ有する人たち)の団体である「群馬盲ろう者つるの会」イベントボランティア活動(3回以上参加)をすることで、群馬県の盲ろう者向け通訳・介助員の資格が取得できます。

ろう重複児・者への支援について学びたい場合

聴覚障害と他の障害(知的障害、視覚障害など)を併せ有する児・者(ろう重複児・者)への支援を学ぶための課外活動があります!

ろう重複児・者と交流する企画の運営・参加

ろう重複者との交流企画



ろう重複者が集まる居場所づくりなどの実践を通してろう重複児・者への支援技術を学びます。

写真引用: <https://sites.google.com/a/gunma-u.ac.jp/kanazawalab/tomato>

(コロナ禍のため、ろう重複児・者と交流する企画運営・参加や「群馬盲ろう者つるの会」ボランティア活動等が難しい場合もあります)

【問い合わせ先】日本財団手話サポーター養成プロジェクト室

(7号館B107) Email: signstaff@jimu.gunma-u.ac.jp

公式LINE:



「手話サポーター養成事業」関連講義の案内

○本事業のプログラムを通じて、聴覚特別支援学校または特別支援学校教員として必要な手話技術を磨いたりろう重複（聴覚障害と他の障害を併せ持つ）児・者への支援技術を習得したりすることができます！

聴覚障害児童・生徒への教育ができる手話技術や伝える力を磨きたい

特別支援学校でろう重複児への教育ができる力を習得したい

触手話・指点字などを学んでみたい

盲ろう者向け通訳・介助員の資格が取りたい

…という人なら誰でも受講可能です！

例えば…聴覚特別支援学校教員向けの手話技術を磨きたい！

「聴覚障害教育演習C」
(前期火曜3・4限)



中野聡子先生



武居渡先生



白澤麻弓先生などの講師陣

教育場面で使える、聴覚障害児・者の特性やニーズに即した手話コミュニケーションと手話通訳の技術を習得します！

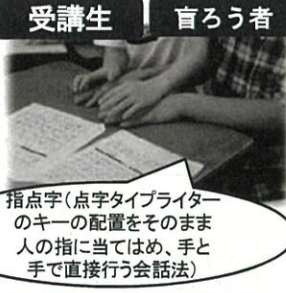
例えば…盲ろう者向け通訳・介助員の資格を取りたい！



前田晃秀先生

時期	講義名	
前期集中(4/17、5/15、6/5、7/17)	聾重複障害児の教育概論Ⅰ※	厚生労働省盲ろう者向け通訳・介助員養成カリキュラムに対応 ・前期の「Ⅰ」が履修済みであること。
後期集中(10/2、10/16、10/30)	聾重複障害児の教育概論Ⅱ※	

集中講義形式となります。時間、教室の情報は掲示板などで確認してください。



群馬盲ろう者つるの会イベントなどへの参加活動(3回以上参加:イベント・会議・作業に各1回以上)
・手話サポーター養成プロジェクト室からイベント情報が送られてきます

群馬県の盲ろう者向け通訳・介助員登録

・群馬盲ろう者の会つるの会理事長の名前で登録証がいただけます。(卒業後などに他の都道府県に移った場合は、その地域の盲ろう者向け通訳・介助員派遣事業団体にご相談した場合、引き続き登録ができる場合もあります)

【注】※ 聾重複障害児の教育概論Ⅰ、聾重複障害児の教育概論Ⅱの講義は卒業要件の単位であり、教員免許の単位には含まれません。

例えば…ろう重複児・者への支援について学びたい！

ろう重複児・者への支援を学ぶための課外活動があります！
ろう重複児・者と交流する企画の運営・参加

ろう重複者との交流企画



ろう重複者が集まる居場所づくりなどの実践を通してろう重複児・者への支援技術を学びます。

写真引用: <https://sites.google.com/a/gunma-u.ac.jp/kanazawalab/tomato>

(コロナ禍のため、ろう重複児・者と交流する企画運営・参加や「群馬盲ろう者つるの会」ボランティア活動等が難しい場合もあります)

【問い合わせ先】日本財団手話サポーター養成プロジェクト室

公式LINE:



(7号館B107) Email: signstaff@jimu.gunma-u.ac.jp

「手話サポーター養成事業」関連講義の案内

○本事業のプログラムを通じて、手話を学んだり、聴覚特別支援学校または特別支援学校教員として必要な手話技術を磨いたり、ろう重複（聴覚障害と他の障害を併せ持つ）児・者への支援技術を習得したりすることができます！

手話・触手話、
指字を
学んでみたい

ろう重複児・者と
関わってみたい！

手話を活用しての
指導やろう重複者
支援ができる教員に
なりた

盲ろう者向け
通訳・介助員の
資格が取りたい

…という人なら誰でも受講可能です！

例えば…手話を学びたい場合

学部の教養教育の講義を履修できます（申請手続きが必要）

・「手話とろう文化」※（前期木曜3・4限）・「手話と情報アクセシビリティ」※（後期水曜5・6限）

本格的に手話を
学びたい人のために

「言語としての日本手話ⅠA（前期火曜1・2限）」※「言語としての日本手話ⅠB（前期水曜5・6限）」※
「言語としての日本手話ⅡA（後期火曜1・2限）」※「言語としての日本手話ⅡB（後期水曜7・8限）」※

【注】※の講義は卒業要件の単位であり、教員免許の単位には含まれません。

ろう文化や
聴覚障害者の
情報アクセシ
ビリティに関
する講義や日
本手話での
簡単なあい
さつやコミュ
ニケーション
の実技があり
ます。

例えば…盲ろう者向け通訳・介助員の資格を取りたい場合



前田晃秀先生

時期	講義名
前期集中(4/17、5/15、6/5、7/17)	一種免許コース 聴覚障害指導法概論B
	専修免許コース コミュニケーション支援特講A
後期集中(10/2、10/16、10/30)	一種免許コース 重複障害児の教育概論
	専修免許コース 重複障害児の教育特講

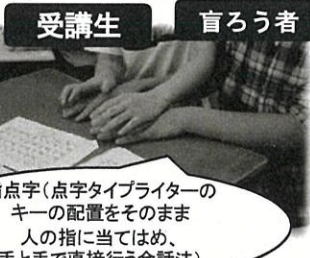
集中講義形式となります。後期の集中講義を受講するためには必ず前期の集中講義を履修していることが条件になります。時間、教室などは掲示板などで確認してください。

厚生労働省盲ろう者向け通訳・介助員養成カリキュラムに対応



受講生 盲ろう者

触手話(人の手に触れることで手話の形を認識する)



受講生 盲ろう者

指字(点字タイプライターのキーの配置をそのまま人の指に当てはめ、手と手で直接行う会話法)

群馬盲ろう者つるの会イベントなどへの参加活動(3回以上参加:イベント・会議・作業に各1回以上)
* 手話サポーター養成プロジェクト室からイベント情報が送られてきます。

群馬県の盲ろう者向け通訳・介助員登録

※群馬盲ろう者の会つるの会理事長の名前で登録証がいただけます。(卒業後などに他の都道府県に移った場合は、その地域の盲ろう者向け通訳・介助員派遣事業団体にご相談した場合、引き続き登録ができる場合もあります)

ろう重複児・者への支援について 学びたい場合

- ・知的障害児の教科指導概論(聾重複児の指導を含む)などの受講
- ・ろう重複児・者と交流する企画の運営・参加 など

課外活動として…

ろう重複者との交流企画

ろう重複者が集まる居場所づくりなどの実践を通してろう重複児・者への支援技術を学びます。



写真引用: <https://sites.google.com/a/gunma-u.ac.jp/kanazawalab/tomato>

(コロナ禍のため、ろう重複児・者と交流する企画運営・参加や「群馬盲ろう者つるの会」ボランティア活動等が難しい場合もあります)

【問い合わせ先】日本財団手話サポーター養成プロジェクト室

(7号館B107) Email: signstaff@jimu.gunma-u.ac.jp

公式LINE:



2) 社会人受講の試行

免許法認定通信教育（2022年度～）、履修証明プログラム（2023年度～）を見据えて、公開講座による社会人受講の試行を行い、オンライン授業へのアクセス、受講者の学習ニーズ等を探った。

公開講座

コンテンツ

- 手話の教養講座
- 手話&手話通訳スキルアップ
- 特別支援学校教員向け研修

行政との連携

- 群馬県：こちらで無料扱い
- 大阪府：府が参加者に助成

申込者数

- 手話とろう文化 26名
- 日本語ネイティブと学ぶ手話 27名
- ろう通訳をモデルに学ぶ手話通訳 30名
- 聴覚障害児教育における日本語の活用実践 8名
- 手話で学ぶ聴覚障害児の発達 31名

群馬大学手話サポーター養成プロジェクト室

2021年度 群馬大学公開講座

オンラインで実施
(自宅で受講できます)

〇2021年度から、群馬大学で開講している日本語を学ぶ授業、手話通訳トレーニングを通して日本語の言語運用スキルを磨く授業、聴覚特別支援学校教員養成の授業の一部を、公開講座として一般市民のみなさまに受講していただけるようになりました。zoomを利用したオンラインで実施いたします。遠方の方もぜひご参加ください。

実施責任者：共同教育学部特別支援教育講座教授 金澤貴之

講義名	回数	対象者	実施形態	内容	日程	講師	講習料
1 手話で学ぶ手話とろう文化 (オンデマンド配信あり)	全0回	・手話を学びたい方 (手話通訳付き)	講義	前半と後半の2部形式。 前半：手話とろう文化についての基礎的な解説 後半：日本語の実践	5月13日(木)～ 6月17日(木) 10:20-11:50	金澤貴之 下島藤子	各1回 1,800円
2 日本語ネイティブと学ぶ手話 ※	4回から選択 (各回定員10名)	・手話通訳者を目指す方 (厚生労働省手話通訳者養成講座修了者) 研修終了相当の方 ・聴覚障害児・者の教育及び支援に関わる方 (日本語の知識やスキルのブラッシュアップとしてご活用ください)	演習	日本語の空間を利用した表現 (社会的空間、図式的空間) 日本語のデモンストラティブ 提示された活動課題について、グループで話し合いながらまとめていき、手話で発表 提示された活動課題について、グループで話し合いながらまとめていき、手話で発表	6月1日(火) 8:40-10:10 6月8日(木) 12:40-14:10 12月14日(火) 8:40-10:10 2022年1月12日(水) 14:20-15:50	中野聡子 他	各1回 1,800円
3 ろう通訳をモデルに学ぶ手話通訳 ※	3回から選択 (各回定員10名)	・手話通訳者を目指す方 (厚生労働省手話通訳者養成講座修了者) 研修終了相当の方 ・聴覚障害児・者の教育及び支援に関わる方 (日本語の知識やスキルのブラッシュアップとしてご活用ください)	演習	ろう者の社会生活場面に關わる課題の日本語-日本語翻訳分析と日本語訳出練習 ろう者の社会生活場面に關わる課題の日本語-日本語の逐次・同時訳出練習について、通訳作業処理過程の観点から改善点を分析 ろう者の社会生活場面に關わる課題の日本語-日本語の同時・逐次訳出練習について、通訳作業処理過程の観点から改善点を分析	6月24日(木) 18:00-17:30 7月7日(水) 10:20-11:50 12月18日(火) 14:20-15:50	中野聡子 他	各1回 1,800円
4 聴覚障害児教育における日本語の活用実践 ※ (予定)	3回 (各回定員5名)	・特別支援学校(聴覚障害)教員・特別支援教育について学ぶ学生 ・フリースクール等で聴覚障害児の教育に關わる方 ・厚生労働省手話通訳者養成講座修了者 ・地方自治体の登録手話通訳者 ・手話通訳士	演習	小学部の教科指導における手話表現 自立活動における手話の活用 高等教育における手話通訳	6月15日(火) 6月22日(火) 7月27日(火) いずれも10:20-11:50	中野聡子 武居 演 白澤麻弓 中野聡子	各1回 1,800円
5 手話で学ぶ聴覚障害児の発達 (予定) (オンデマンド配信あり)	全3回	・特別支援学校(聴覚障害)教員・特別支援教育について学ぶ学生 (手話通訳付き)	講義	聴覚障害児の認知発達 聴覚障害児の手話言語発達 2022年1月13日(木) いずれも14:20-15:50 聾重複児の発達の様相とアセスメント	10月28日(木) 11月11日(木)	中野聡子	各1回 1,800円

*手話通訳付き。但し、手話による演習があるため、手話がスムーズに使えることが条件です。

※定員制となっている講義は、より多くの方に受講機会を提供するため、複数回の参加希望には応えない場合があります。

オンラインでの授業
・zoomによるビデオ会議システムを用います。
・zoomへの接続方法などのご案内は行っておりません。

【問い合わせ先】 群馬大学研究推進部産学連携推進課 産学・地域連携係
メール: kouza@iimu.gunma-u.ac.jp 電話: 027-220-7517

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION

【公開講座1】 手話とろう文化

1. 実施の詳細

「手話とろう文化」の授業を全6回、公開講座として講義と実技の2部形式で行った。講義では、ろう者の考え方や行動様式を「ろう文化」という異文化理解の視点で捉えていくことで、多文化共生社会のあり方について見識を深め、実技では、初歩レベルの会話を手話で学ぶ機会を提供した。対象者は、手話を学びたい方とした。また、授業終了後、1週間の期間限定でZoom録画映像をYouTubeにアップし、当日参加できなくてもオンデマンドで公開講座が受けられるようにした。

実施日	参加者数	講師	内容
5月13日	26名	金澤貴之 下島恭子	講義「言語としての日本手話」 実技「コミュニケーションを深めよう」
5月20日	26名	金澤貴之 下島恭子	講義「90%ルールがもたらすもの」 実技「味や香りの感想を伝えよう」
5月27日	26名	金澤貴之 下島恭子	講義「言語と文化」 実技「時間に関する手話を表現しよう」
6月3日	26名	金澤貴之 下島恭子	講義「ろう文化の世界」 実技「場所に関する手話を表現しよう①」
6月10日	26名	金澤貴之 下島恭子	講義「ろう文化の世界」 実技「場所に関する手話を表現しよう②」
6月17日	26名	金澤貴之 下島恭子	講義「「聴覚障害」の相対性、重層性」 実技「想いを伝えよう」

2. 受講者の感想から(抜粋)

- 言語と文化の関係など興味深い内容でした。今回は、学生さん向けの講義の一部分に参加する形でしたが、もう少し聞きたいというところで終わってしまいました。集中講義のような形があればと思います。
- 初めて手話言語について学ぶことができました。本を読むだけでは得られなかった満足感があります。
- リモート、オンデマンドだと仕事をしながらでも受講できて良い。手話に関する講座を引き続き開催してほしい。地方は情報が無い。
- 日本手話を体系立てて学ぶ機会がないので、とても勉強になりました。
- 大変すばらしい公開講座でした。多くの群馬大学の学生たちとともに受講できたことも、学生時代に戻ったような心持ちでした。手話言語学に特化した講義があればぜひ受講したいです。

- 初学者向けということもあり、大変分かりやすい内容だと感じました。大学の公開講座というだけで敷居の高いイメージがあるため、可能であればもっと身近な媒体（地域のフリーペーパーなど）にも広告すればもっと幅広い層の受講生を獲得できると思いますし、それがろう文化のより良い理解につながると思います。

【公開講座2】 日本手話ネイティブと学ぶ手話

1. 実施の詳細

「日本手話ネイティブと学ぶ手話」(I/II)の授業を各2回ずつ、公開講座として学術的知見に基づいた日本手話の指導を受ける機会を提供した。対象者は、厚生労働省手話通訳者養成講座応用課程修了相当の方とした。各回10名を定員とし、少人数グループで学生と公開講座参加者が一緒に学んだ。

実施日	参加者数	講師	内容
6月1日	10名	下島恭子 川端伸哉	「日本手話の空間を利用した表現」について、社会的空間、図式的空間を中心にした言語形式を学び、文法演習問題を通して理解を深めた。
6月9日	10名	下島恭子	「テンスとアスペクト」に関する言語形式を学び、文法演習問題を通して理解を深めた。
12月14日	4名	中野聡子 下島恭子	「オスズのデートスポット」について、順接、仮定・条件節、RS表現を使って、ペアごとに紹介を考え、発表を行った。
1月12日	2名	中野聡子 下島恭子	「日本のお雑煮の実態を調査しよう」を題材にして調査活動を行い、CL表現、段階的形容詞の表現、副詞のNM表現、アピールポイントの表現(指さしと/イウ/表現)を使った報告発表を行った。

2. 受講者の感想から(抜粋)

- 日本手話を体系立てて学んだことがないので、基本的なことをじっくり学べるのはとても貴重な体験でした。できれば1年間、半年間など、もっと多くの回数を受講できたらうれしいです。
- 講義で学んだ技術を使って実習をすることで、理解が深まり技術も身についたと思います。
- 事前に頂いた資料や動画で目的や内容を把握できたおかげで、わからない語彙を確認しながら自分なりに準備をして当日の講座にのぞむことができました。また、当日の講座も担当の先生の丁寧な解説や、実技を通して学生さんとふれあうことができ、大変楽しく学びの多い有意義な時間でした。来年は仲間も誘ってぜひ受講したいです。
- 講師のあたたかいご指導や講座内容もさることながら、事前資料や動画がとても充実していて大変驚きました。HPにあった反転授業の一端を身をもって体験でき、本当に嬉しかったです。

【公開講座3】 ろう通訳をモデルに学ぶ手話通訳

1. 実施の詳細

「日本手話と日本語の違いを学ぶ」(Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ)の授業を各1回ずつ、公開講座として学術的知見に基づいた日本手話の通訳指導を受ける機会を提供した。対象者は、厚生労働省手話通訳者養成カリキュラム実践課程修了相当以上の手話通訳学習者、現任手話通訳者、特別支援学校教員、特別支援教育を専攻する学生等とした。各回10名を定員とし、少人数グループで学生と公開講座参加者が一緒に学んだ。

実施日	参加者数	講師	内容
6月24日	10名	下島恭子	「娘の交通事故」について語るろう者の手話動画を用いて、段落ごとに話の内容を確認し、RS表現を中心とした日本語への翻訳について検討した。
7月7日	10名	能美由希子	「遊園地でのデート」について語るろう者の手話動画を用いて、話題化と焦点化、実体CL、程度を表す手話表現とNM、否定表現、順接・逆接表現等の文法について復習を行いながら、日本語への翻訳について検討した。
12月14日	11名	中野聡子 下島恭子	「ろう者あるある失敗談」について語るろう者の手話表現を翻訳における目標言語のモデルとして、アスペクト、RS表現、日本語の連体詞「ある」の訳し方等について振り返りつつ、日本語から日本手話への翻訳検討を行った。

2. 受講者の感想から(抜粋)

- 日本手話の読み取りは難しいと改めて感じたので、また申し込みしたい。
- すごく楽しかったです!!丁寧に解説していただけてとてもよくわかりました。
- ろう者の手話から学ぶことの大切さを改めて感じる事ができました。
- ポイントごとにとっても詳しく説明してくださり、よく理解できました。また、読み取る際のコツとかろう者の話の特徴を知ることが出来て、驚くことが多く楽しい90分でした。
- 連続してもっともっと講義を受けたい気持ちでいっぱいです(*'▽')(無理でしょうが。。)
- 事前に資料、動画を送付していただけたので、予習ができ、それもととても良い勉強になりました。(いかに読めていないかがわかりました。)
- 日本手話の特徴的な表現をピックアップし、解説してもらえたのが良かったと思います。
- 翻訳だけでなく、同時通訳の勉強ができる講座があれば、さらに嬉しいです。

【公開講座4】 聴覚障害児教育における日本手話の活用実践

1. 実施の詳細

特別支援学校教員、特別支援教育について学ぶ学生、フリースクール等で聴覚障害児の教育に関わる方を主な対象として、日本手話を活用した指導を実践的に考える公開講座を行った。定員を各回5名とし、「聴覚障害教育演習C」の受講学生と一緒に学びの機会をもった。

実施日	参加者数	講師	内容
6月15日	4名	中野聡子	聴覚障害児の算数・数学における躰きの要因、足し算・引き算の文章題における指導ポイント、算数・数学指導に必要な手話の言語スキルについて概説したあと、グループごとに「長方形が台形や平行四辺形の一種である」ことを指導する模擬授業を考え、プレゼンテーションを行った。
6月22日	4名	武居渡	手話を活用して日本語の語彙、文法、談話の力を育てる指導と、手話そのものの言語運用力を育てる指導の観点から概説したあと、受講者は、自立活動の授業における手話を活用した日本語指導例を考えて発表した。

2. 受講者の感想から(抜粋)

- 大変興味深く聴講させていただきました。また、教育学やろう児教育は私の学部時代の専門ではないので、教育を専攻している学生の着眼点が面白かったです。
- 学生のプレゼンやそれに対する武居先生のお話はとても参考になりました。久しぶりに講義を聞け、改めて自立活動の指導について自分でも考えたいと思いました。
- 手話で「格助詞」の表し方に興味を持った。若い学生さんが、高い知識と教養を身に付け「手話言語」を大切に、将来、ろう学校を盛り上げていただきたいと思った。
- 生徒のプレゼン自体も現場の教師としては、とてもいい教材のヒントを与えてもらったと感じた。それに対しての武居先生のアドバイスや武居先生が考える自立活動の観点についてご講義ただけて、今の授業の反省や振り返り、そして今後の自立活動のあり方について考えるいい機会、学びが多くあり受講できて良かったです。ありがとうございました。
- 手話とは別に教育者としての側面やろう児との接し方など多くの学びがあり充実した時間でした。

【公開講座5】 手話で学ぶ聴覚障害児の発達

1. 実施の詳細

特別支援学校教員、特別支援教育について学ぶ学生、フリースクール等で聴覚障害児の教育に関わる方を主な対象として、「聴覚障害児の心理特論／概論」の授業の3回を公開講座として提供した。聴覚障害児の認知発達、言語発達、ろう重複児のアセスメント等をトピックスとした。

実施日	参加者数	講師	内容
10月28日	11名	中野聡子	聴覚障害児の概念形成、知識活用の方略、メタ認知と心の理論について概説した。
11月11日	10名		両親ろうのろう児における手話言語発達、手指音声言語からみた音声言語の発達について概説した。
1月13日	9名		ろう重複のタイプと発達上の課題、ろう重複児の発達アセスメントの重要性、聴覚障害と発達障害を併せ持つ子どもの手話言語発達、聴覚障害と知的障害を併せ持つ子どもの言語発達について概説した。

2. 受講者の感想から(抜粋)

- 普段生徒に接していて、なんとなく感じていたことが理論化されていて、スッキリしたところがあります。日本語対应手話を用いて授業をしていますが、それだけでは不十分だと分かりました。大学の講義を受けるのは久しぶりでした。新しい知見を得ると、少し世界が広がります。ありがとうございました。
- 新しい学びもあったので、受講できてよかった。
- ろう者について少しずつ理解を深めることができ嬉しいです。しかしながら、専門用語等、勉強不足でわからないことが多いです。
- 日本語も手話も堪能な大人がろう児の周りには必要なんだと、改めて思いました。

3) 高校選択科目「手話」の実現に向けた試行(聖光学院高校・前橋市立高校)

手話通訳者の高齢化に対する全国的な課題の解消に向けて、遠隔教育にて、高校段階から手話の体系的な学習機会を増やすことを見据えた取り組みを実施した。仮に、高校段階で手話の基本的なスキルを習得することができ、その上で在住の都道府県が受講資格者として認めたならば、高校卒業後に都道府県が実施する手話通訳者養成講座(厚生労働省カリキュラム)の受講が可能になる。

なお、厚生労働省の制度としては、「手話奉仕員」と「手話通訳者」との資格付与の間に連続性はない。各々の自治体の判断において、手話通訳者養成講座の受講資格に、「手話奉仕員養成講座を修了していること」を求めているところが多く見受けられるというところであるため、高校での学びをどのように認めていくかは、それぞれの自治体の判断に委ねられるということになる。

自治体が手話通訳者養成講座の受講が可能と認めるためには、複数年度に渡っての体系的な学びが必要となり、そのためにも学校設定教科・科目のような形で体系的に実施できるカリキュラムが求められる。

(1) 聖光学院高校での「手話」科目の開始に向けた取り組み

	月日	受講者数	担当者	内容	形態
出張講義	5/7	約70名	金澤・二神・甲斐	手話とろう文化 聾者の被災体験	甲斐はオンライン
	7/6	約70名	金澤	言語としての日本手話イントロダクション	対面
	11/17	約40名	金澤	日本手話ってどんな言語?(4要素)	対面
	12/10	約40名	金澤・二神・池田(学生)	日本手話ってどんな言語?(基本文型)	対面
	1/25	約40名	金澤	日本手話の基本文型を使ってみよう(アル、イル)	オンライン
オープンスクール	9/4	約20名	二神	プロジェクト室紹介	オンライン
	10/23	約20名	金澤	手話とろう文化	
連携式	7/6		金澤	聖光学院高等学校、(株)プラスヴォイスとの三者で、 <u>2022年度からの学校設定科目「手話」の実施について連携していくことを確認</u>	

(2) 前橋市立高校におけるゲスト講師

- ・ 日時：12月3日 16時から17時
- ・ 担当者：金澤・二神
- ・ 内容：日本手話についての基礎知識と簡単な手話の実技を学習

(3) 高校における試行的実践を通して得られたこと

① 「将来のため」ではなく、今、完全燃焼できる目標設定が必要

手話通訳者養成には、群馬県の制度を例にすれば、手話習得にかかる時間（手話奉仕員養成講座）も含めると、最低でも5年かかる。これは高校生の現実感に照らすと目標が遠すぎてモチベーションがあがるものではない。

そのため、高校3年間で「完全燃焼」できる、目の前に見える目標設定が必要であると考えられる。具体的には、全国手話検定試験と「手話部」の設立である。

全国手話検定試験は1級から5級までであるため、それぞれの習熟度に合わせて取得が可能な資格といえるし、高校卒業後の就職における自己アピールにも役立てられる。

一方、「手話部」は、単に手話を勉強する活動ではなく、「手話パフォーマンス甲子園」への出場という具体的な目標設定も可能であり、大会出場に向けた自主的な練習により、飛躍的な技術向上も期待できる（特に聖光学院高等学校は、甲子園出場常連校でもある）。

② 大学生とは異なるカリキュラム構築が必要

群馬大学で「言語としての日本手話」を履修し、さらに「日本手話と日本語の違いを学ぶ」の履修も希望する学生の場合、「聴覚特別支援学校教員として手話が必要！」という明確な目標設定があり、事前課題もキチンと提出する意欲がある。それに対して、高校で手話を学校設定科目として設定した場合、それを必修相当にするのか選択にするのかで、修学意識が大きく異なってくる。意識を高い水準でそろえるためには、選択科目として設定する必要がある。あるいは1年目は必修とし、2～3年生を選択科目とする方法も一案であろう。

興味関心、スキルにばらつきがある集団の中で学びを進めていくには、構文指導と会話演習のバランスに一層留意していかなければならない。大学生向けの内容の難易度の下方修正するだけでなく、楽しく学べる工夫や、毎回の目標設定の明確化が求められよう。

4) 聴覚特別支援学校高等部向けの手話の授業

公立の聴覚特別支援学校の教育課程における手話の取り扱いは、あくまでもコミュニケーション手段となっている。聴覚障害児教育における手話の位置づけの転換を促し、また聴覚障害生徒に言語として手話を学ぶ機会を提供するため、群馬大学の出張模擬授業の制度を活用して、聴覚特別支援学校高等部向けにオンラインで手話の授業を行った。

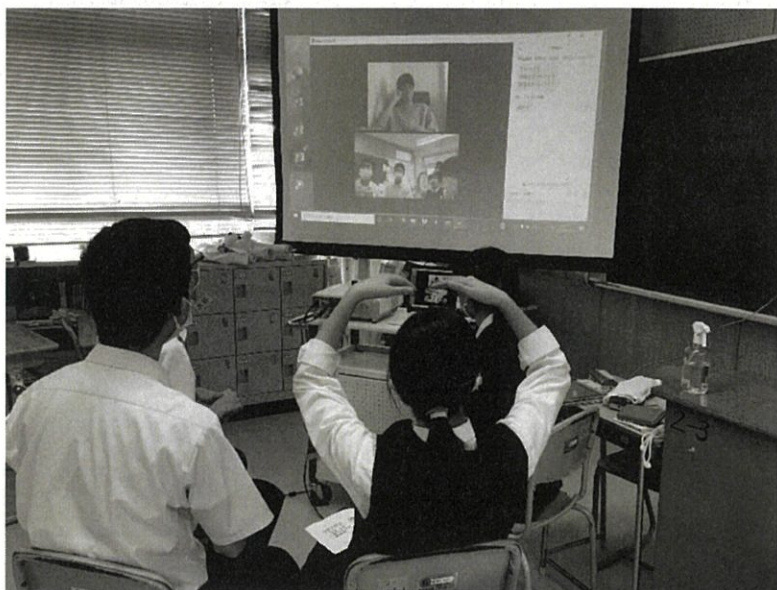
模擬授業は、日本手話の修飾表現をテーマとし、授業時間数に応じて、程度を表す日本手話の表現、CL 動詞による動詞の修飾のどちらか、もしくは両方を扱った。日本語と手話の修飾表現の違いについて具体的な例をみながら考えたあと、グループワークを行い、生徒たち自身でクイズを出したり、ショートストーリーを作って発表するなどして、手話の学習を楽しんだ。

講師はすべてろうのスタッフが担当した。

学校名	実施日	時間	対象	申込者数	講師名
茨城県立水戸聾学校	9月17日	13:30-15:00	3年生	4名	甲斐 更紗
筑波大学附属聴覚特別支援学校	9月28日	13:20-15:10	2年生	27名	甲斐 更紗
三重県立聾学校	11月9日	13:30-15:15	1・2・3年生、 教員	17名	中野 聡子
福島県立聴覚支援学校	11月30日	13:25-14:15	2年生	5名	中野 聡子
岐阜県立岐阜聾学校	12月7日	8:50-9:40、 14:30-15:20	1・2・3年生、 専攻科	12名	甲斐 更紗
	12月14日	8:50-9:40、 14:30-15:20	1・2・3年生、 専攻科	12名	甲斐 更紗
秋田県立聴覚支援学校	12月17日	13:30-14:20	1・2・3年生、 教員	11名	甲斐 更紗
埼玉県立特別支援学校坂戸ろう学園	12月22日	11:50-12:40	1・2・3年生	16名	下島 恭子

※すべてオンライン (Zoom) による実施

○模擬授業の様子



(9月28日 筑波大学附属聴覚特別支援学校)



(9月28日 筑波大学附属聴覚特別支援学校)



(11月9日 三重県立聾学校)

特別支援学校高等部 (聴覚障害) 生徒のための 大学の授業

日本手話
とは何
だろう？



「日本手話」と
「日本語」の
違いは何か？



特別支援学校高等部（聴覚障害）のみなさん！
群馬大学で「日本手話」について学んでみませんか？
大学授業を自分の学校の中で経験してみませんか？
すべて無料です！

講義題目：

日本手話と日本語の違いを見つけよう

対象：手話を使用する
特別支援学校高等部（聴覚障害）生徒

講義内容：

ふだん何気なく使っている日本手話と日本語。
日本語から日本手話への翻訳を通して、2つの言語間における表現や文化の違いを学びます。



講師：中野聡子・甲斐更紗（共同教育学部）
下島恭子（学生支援センター）

■zoomによるオンライン講義で実施します。

※講義資料等印刷物がある場合には、おそれいりますが各自印刷お願いします。
※お申し込みは、学校単位のみとなります。（個人ではお申し込みいただけません）

【授業の内容等についての問い合わせ先】

群馬大学手話サポーター養成プロジェクト室
(日本財団事業)

E-mail signstaff@jimu.gunma-u.ac.jp

TEL：027-220-7157・

027-220-7137 (7157不在時)

FAX：027-220-7390



【申込先】

群馬大学HPの模擬授業
申込フォーム（以下URL）
からお申し込みください。
[https://www.gunma-u.ac.jp/
admission/
adm009-2/g2165](https://www.gunma-u.ac.jp/admission/adm009-2/g2165)

